

表現と鑑賞の一体的な指導を通じた授業の在り方

—みて、思いを深めて伝えることで造形・美術に親しむ—

図画工作・美術科研究会議

澁谷 典子¹

荒金 庸子²

中園 順子³

奥澤 司⁴

要 約

物や情報が身の回りにあふれ、価値意識が多様化したこれからの社会を生きていく子どもたちが、身の回りの造形・美術のよさに気づき、主体的にかかわることで心豊かに生活していく力を育てたい。そのために、子どもたちが様々なものをみる「鑑賞」を通して何をみて美しいと思ひ、心地よいと感ずるかといった自分なりの感性を培っていくことが必要である。

そこで、鑑賞を積極的に授業に取り入れるために、造形表現活動の中に効果的に鑑賞を取り入れ相互に能力を高める授業の在り方を、新しい学習指導要領の〔共通事項〕に書かれているイメージ、形や色について、言語活動の充実を踏まえて研究を行うことにした。

作品をみて、感じ取ったことや考えたことを言葉や色、形を用いて表すことで、イメージを具現化することができる。それを相手に伝えることで自分の表したいことをより明確にとらえ、造形表現活動に生かしていけるのではないかと考え、「作品を見て感じ取ったイメージを、言葉や色、形として伝え、具現化することで、鑑賞を表現活動に生かすことができる。」と仮説を設定し、検証授業を行った。

鑑賞で得たことを表現へと生かしていくことができるように、鑑賞の視点を明確にし、また作品から得たイメージを具現化し情報を共有するための言語活動を授業に取り入れ、そのことで鑑賞が児童・生徒の造形表現活動に生かされていくか検証した。

子どもが鑑賞で感じ取ったイメージを具現化する活動を取り入れたことで、自分自身の作品に対して振り返りの機会が得られ、どのようにしたいかを明確にとらえることができるようになってきたことが学習の振り返りカードやワークシート、作品からも読み取れる。自分なりのよさや美しさを感じるとる価値意識をはぐくむために、またより多くの表現様式を知り、そこから得たイメージを表現に生かしていくためにも、授業の中で様々な作品をみる鑑賞を積極的に取り入れていく価値があることが明らかになってきた。

キーワード：鑑賞、表現、色や形、イメージ、言語活動の充実、コミュニケーション

目 次

I 主題設定の理由	6 6	4 検証授業の実際と考察	7 0
1 はじめに	6 6	(1) 検証授業1	7 0
2 新しい学習指導要領から	6 6	(2) 検証授業2	7 3
(1) 〔共通事項〕について	6 6	(3) 検証授業3	7 6
(2) 図画工作科・美術科での言語活動	6 7	III 研究のまとめ	7 9
3 研究のねらい	6 7	1 研究の成果	7 9
II 研究の内容	6 8	(1) イメージの具現化につながる活動	7 9
1 研究仮説	6 8	(2) 言語活動の充実	7 9
2 本市の実態について	6 8	(3) 表現の広がり	7 9
(1) 調査時期及び調査対象	6 8	2 今後の課題	8 0
(2) 調査結果及び分析	6 8	参考文献	8 0
3 研究の方法	7 0	指導助言者	8 0
(1) 鑑賞方法の検討	7 0		
(2) 鑑賞の視点の提示	7 0		
(3) イメージを具現化する	7 0		

¹川崎市立大島小学校教諭（長期研究員）

²川崎市立殿町小学校教諭（研究員）

³川崎市立西中原中学校教諭（研究員）

⁴川崎市立犬蔵中学校教諭（研究員）

I 主題設定の理由

1 はじめに

わたしたちは暮らしの中に生きる美術と密接なかかわりをもって生活をしている。例えば、家具や食器のデザインから暮らしのぬくもりや華やかさ、使いやすさなどを考えて取り入れることで、潤いのある生活をつくりだすことができる。美術館に行ったり自然に触れたりする中で喜びや安らぎを感じることも、ファッションを楽しんで日々の活力にすることもできる。

これからの社会はますます高度化、情報化、国際化が進展し、価値意識が多様化していくだろう。その社会を生きる子どもたちが美術を愛好する心情をもち、自分なりのよさや美しさといった価値意識をもって心豊かに生活していく力を図画工作・美術科の授業を通して育てていきたい。

そのためには様々な色や形、表現方法で表された作品をじっくりと「みる」という経験をして何をみて美しいと思ひ、心地よいと感じるかといった自分なりの感性を子ども一人一人が培っていく機会が必要となる。

平成20年1月に中央教育審議会の答申において、小学校、中学校を通じる図画工作科、美術科の改善の基本方針には鑑賞活動の重視が次のように示された。

表1 「図画工作科、美術科 改善の基本方針」(抜粋)

(i) 改善の基本方針 抜粋

○よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりするなど、鑑賞の指導を重視する。

しかし、本市で6月に教員を対象に行ったアンケートの鑑賞の項目には「みることに関心をもつ」「みる楽しさを味わうようにする」といった指導について「あまり効果が上がっていない」もしくは「指導に困難を感じる」といった回答が寄せられる結果となった。

また、図画工作・美術科は教科の特性として、活動の過程で子どもたちが試行錯誤する中に多くの学びがある。そのため、鑑賞指導を積極的に行い、言語活動を充実させることにより、表現活動の時間が割かれ、造形表現活動を通して創造活動の基礎的な技能を習得する機会が減ってしまうのではないかと懸念をもった。

そこで、本研究では鑑賞を授業の中に効果的に取り入れて、表現活動に生かすにはどのような活動を行うことができるか、児童生徒の実態を調べるとともに、新しい学習指導要領をもとに研究を進めていくことにした。

2 新しい学習指導要領から

(1) [共通事項] について

今回の学習指導要領の改訂では、次の〔共通事項〕が新たに設置された。この〔共通事項〕は、育てたい資質や能力と学習内容との関係を明確にするとともに、領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を整理したものといえる。学習指導要領には次のような概要が示された。

- ・自分の感覚や活動を通して形や色などをとらえる。(小学校)
- ・自分のイメージをもつ。(小学校)
- ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解する。(中学校)

・形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。(中学校)

このような形や色、イメージなどは、表現及び鑑賞の活動で発想や構想、創造的な技能、鑑賞などの能力を働かせる際の具体的な手がかりになっている。〔共通事項〕が表現や鑑賞の領域や活動などの全体にかかわる事項であることを踏まえて、指導内容や方法を「色や形」「イメージ」の2点について検討しながら授業の実践を行っていきたいと考えた。

(2) 図画工作科・美術科での言語活動

表2 「小学校学習指導要領解説 図画工作科改訂の要点」(抜粋)

(ii) 内容の改善 抜粋 エ 言語活動の充実 「B鑑賞」の各学年の内容に「話したり、聞いたりする」、「話し合ったりする」などの学習活動を位置付け、言語活動を充実する。
--

表3 「中学校学習指導要領解説 美術科改訂の要点」(抜粋)

(2) 内容の改善 抜粋 イ(省略) 自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し、第1学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ、3年間で説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにする。

言語活動の充実が新しい学習指導要領にも示されているので、鑑賞を通してそこで得られたことが造形表現活動につながるような活動を行っていきたいと考えた。

作品をみたときに得られたイメージ、制作活動の中で自分の作品をどのようにしていきたいか、などといったことを表すには、感じ取ったことや表現したいことを言葉や色、形として表し、受け取った情報を整理することでより具現化しやすくなると思われる。また、形や色、言語を用いて交流することで周りの友人と発想や構想、感じ方の情報を共有することができ、そのことをお互いに触発しあって発想や構想の能力、創造的な技能にわたる創造活動の基礎的な能力を高めあっていくことができるのではないかと考え、そのための指導方法について研究をすすめていくことにした。

3 研究のねらい

新しい学習指導要領の「言語活動の充実」にも「鑑賞の重視」が示され、本研究のテーマである「表現と鑑賞の一体的な指導を通じた授業の在り方」が、これからますます求められることがわかる。

また、そのためには、みて感じ取ったことや考えたことを相手に伝えることで、鑑賞が表現に活かされていくのではないかと考え、次のように研究主題、サブテーマを設定した。

研究主題 表現と鑑賞の一体的な指導を通じた授業の在り方 ーみて、思いを深めて伝えることで造形・美術に親しむー

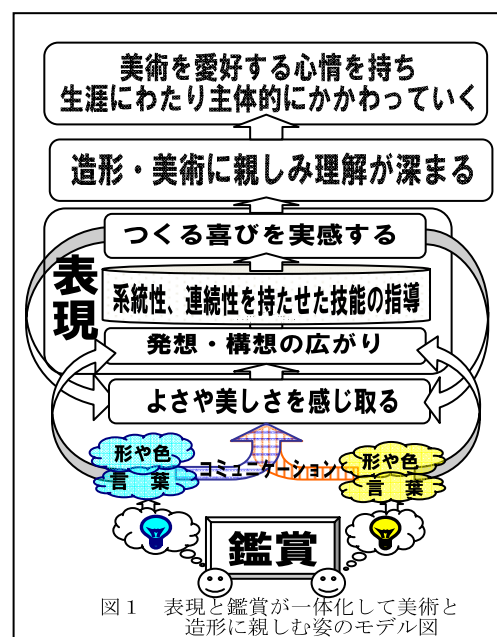


図1 表現と鑑賞が一体化して美術と造形に親しむ姿のモデル図

II 研究の内容

1 研究仮説

子どもが作品を「みる」という活動を行い、感じ取ったことや考えたことを言葉や色、形を用いて表現し、伝え合う。それにより、イメージを他者と共有できるように具体化することにつながり、自分の思いをより明確にとらえ、造形表現活動に生かしていくことができるのではないかと考え、仮説を設定した。

作品をみて自分なりに感じ取った後、作者の思いを知ることで、自分が何をどのように表したいのかということに目を向けることができる。また、作品から表現方法の手がかりを得て、自分の活動に生かすことで自信をもって造形表現活動を行うことにつながるのではないだろうか。その結果、つくる喜びを実感し、作品のよさや美しさに触れ、造形や美術に親しむことができるのではないかと考え、仮説を設定した。

仮説

作品をみて感じ取ったイメージを、言葉や色、形として伝え、具現化することで、鑑賞を表現活動に生かすことができる。

2 本市の実態について

川崎市の小学校、中学校でアンケート調査を行い、子どもたちが、図画工作・美術科の学習をどのようにとらえ、指導で何を必要としているか把握して実態に基づいた指導法を検討、実践していくことにした。

(1) 調査時期 平成 20 年 6 月

表 4 調査対象

(2) 調査対象

小学校 17校			中学校 7校	
低学年	中学年	高学年	第1学年	第2学年
475名	470名	543名	267名	187名
合計 1488名			合計 454名	

(3) 調査結果及び分析

① 図画工作・美術科についての意識調査

図 2 より小学校では高学年になるにつれて「図工が好き」と答える児童が減少している。中学校 1 年生は「美術が好き」と答えた生徒が小学校 6 年生の割合に比べると大幅に減っている。学習内容が変わるといってもあるが、図画工作科から美術科へ子どもたちが円滑に移行できるように、小学校と中学校の連携の必要性を強く実感する結果となった。

また、図 3 の「自分の作品に満足しているか」の問に対し、「満足している」という答えも学年が上がるにつれて減少している。

中学校の生徒に満足していない理由を聞いたところ「形が思い通りにならない」「もっとうまくなりたい」という回答が多かった(図 4)。

新井哲夫は「表現様式の点から言えば、思春期に描画に対する苦手意識を強める子どもが増えるのは、幼児期や児童前期に広く見られる図式的な表現様式が、育ちつつある客観的なものの見方にそぐわないために放棄される一方、それに変わる表現様式を身につけていない『表現様式不在』の時期に当たる」¹⁾ からだと述べている。

1) 新井哲夫「様式の不在としての描画の危機—思春期における描画の危機をめぐって」

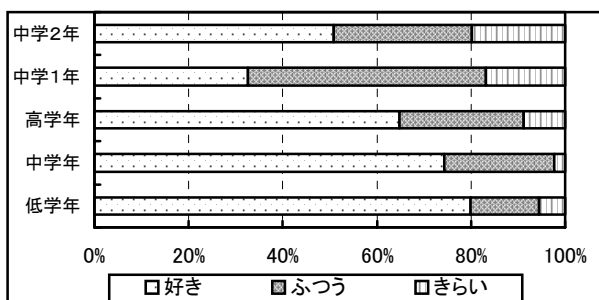


図2 図画工作科・美術科は好きですか

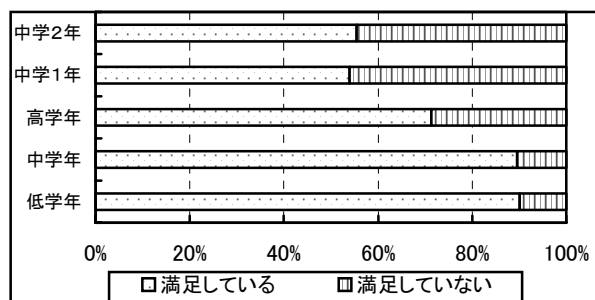


図3 自分がつくった作品に満足していますか

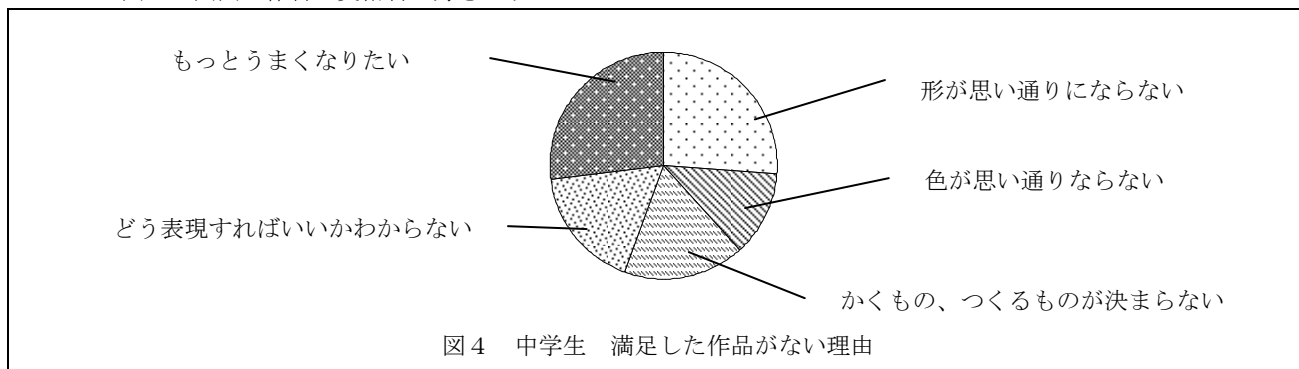


図4 中学生 満足した作品がない理由

② 造形活動について

子どもたちが図画工作科・美術科の授業でどこにつまずき、どのような指導が必要だと感じているのか調べた。小学校で行った「アイデアは浮かびますか」の間に対し図5から発想・構想の段階では自然に浮かばなくても周りの友達や教師からのヒントを生かして学習を進めていることがわかる。学年が上がるにつれてその傾向が増えている。「やり方を教えてもらうのと自分で考えるのはどちらがすきですか」の間に対しては図6から高学年は9割以上が「自分で考える方がすき」と答えている。

中学校では、「形や色が思い通りにできるように技術を教えてほしい」という回答が一番多かった(図7)。2番目に多かった回答は「自由にやらせてほしい」であった。

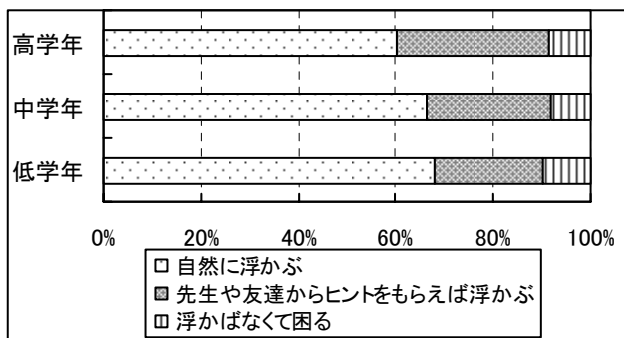


図5 アイディアは浮かびますか

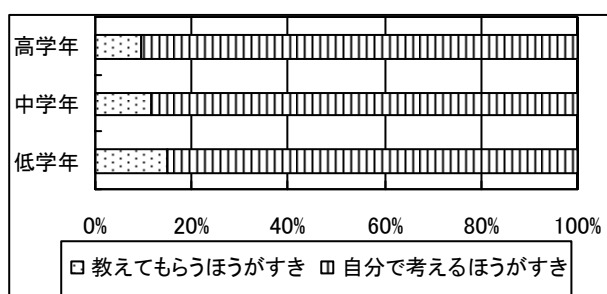


図6 やり方を教えてもらうのと自分で考えるのではどちらが好きですか

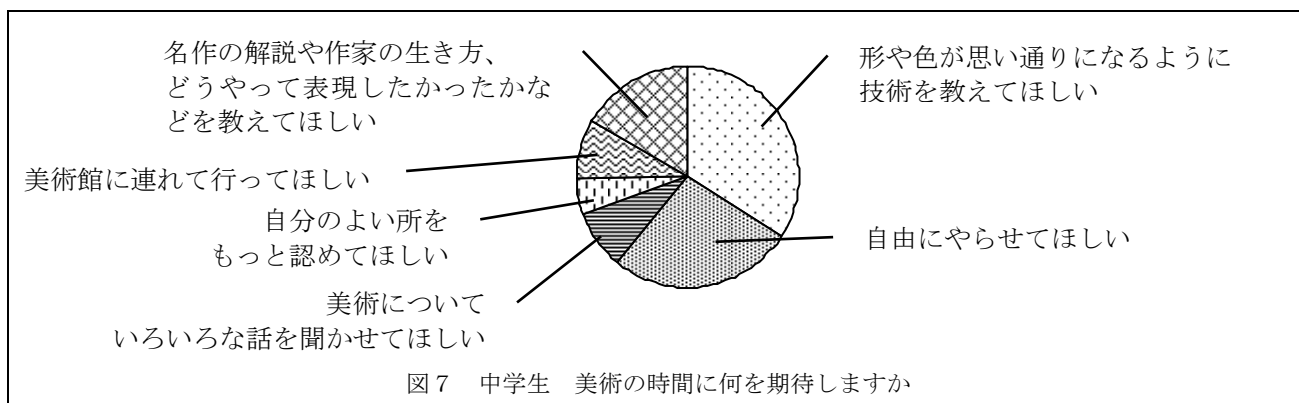


図7 中学生 美術の時間に何を期待しますか

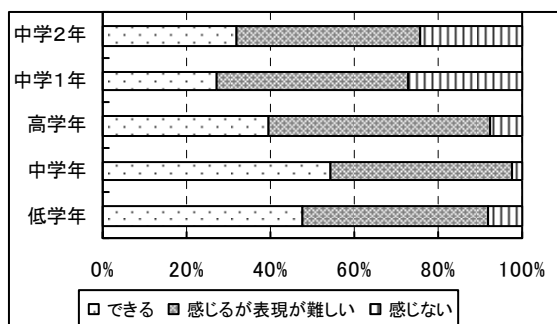


図8

小学校 友達から作品を見たことを書いたり、話したりできますか
 中学校 美術作品などを作者の心情や表現の工夫を考えて鑑賞できますか

③ 鑑賞について

図8から作品をみて感じることはあってもそれを表現することが難しいと考えていることがわかった。学齢が上がるにつれて「できる」という回答が減り、中学校では「感じない」という生徒が増えている。

鑑賞活動の学習の目標のちがいが、質問の内容が異なることも影響していると思われるが、ここでも小学校と中学校での円滑な移行ができるようにしていきたい。

3 研究の方法

アンケートの結果を踏まえ、鑑賞を表現活動につなげるための手立てとしてどのような指導を行うことで効果がみられるか、検証授業を行い、仮説を検証した。

(1) 鑑賞の方法の検討

鑑賞を表現につなげるためにはどこで何を鑑賞するのかということが重要である。

新しい学習指導要領の教育課程の実施に当たっての、配慮しなければならない事項の中に、「従前に比べて見通しを立てたり振り返ったりする学習活動の充実を図る」とある。

そこで、検証授業では単元の途中で鑑賞を取り入れ、自分の作品について改めて見直して表現にどのように生かすことができるのか子ども自身が振り返ることができるようにした。

(2) 鑑賞の視点の提示

アンケートの結果から作品をみても「感じ取ったことを表現することが難しい」という答えが多かったことから、学習のねらいにそった「鑑賞の視点」を設けて提示することにした。これにより作品からよさや美しさを感じ取るだけでなく、創造活動の基礎的な技能につながる鑑賞ができると考えた。

(3) 感じ取ったイメージを具現化する

材料や作品から感じ取ったイメージを言葉として整理し、話したり、書いたりして相手に伝えることでどのようにしていきたいかといったことが明確になり、表現活動につながると考えた。

具体的な活動として話し合い活動の工夫やワークシートへの記入などを行い、友達や教師とコミュニケーション活動を授業の中に取り入れた。

4 検証授業の実践と考察

(1) 検証授業1：小学校高学年(5年生)

- ① 題材名「私の島へ行こう」(表現：つくりたいものをつくる)
- ② 構想

この題材では、どんな島に行きたいかという課題から、自分らしい発想をもって表現したいものを考え、

表5 鑑賞の方法

単元の中に位置づけられる鑑賞活動	導入時鑑賞 中間鑑賞 作品評価鑑賞
単元に組み込まれず独立した鑑賞	単独鑑賞 環境・掲示型鑑賞
造形表現活動と同時に 行われる鑑賞	造形遊びの活動の中での鑑賞

身近にあるいろいろな材料を何かに見立てたり、組み合わせたりしながら自分の表したいものをつくりあげさせたい。また、今まで使ってきた身の回りの材料以外にも目を向けさせ、使い方を工夫させることで、新しい表現方法が生まれることを実感させたいと考える。さらに、友達同士の作品鑑賞会を通して、表現のちがいや工夫に目を向けさせ、子どもたちの表現方法に幅を持たせられればと考える。

③ 単元計画 (全7時間)

		抽出児童A		
		情意面の実態	造形活動の基礎的な能力の実態	
		発想はよいが根気よく作業ができない。	○イメージに合った材料選びや材料の組み合わせに悩むと思われる。 ○友達とのかかわりの中で認められるようにしたい。	
準備	身につけさせたい力 活動への意識付け、意欲 材料を見て発想を広げる力 主な学習活動 材料集め 身近にある廃材を見立てる。	抽出児童Aの予想される活動と意識の流れ及び個に応じた教師の手立て 図工に対して意欲的なので、材料となるものを探し、見立てをしながら発想をふくらませるとともに廃材を使って立体作品をつくることを意識する。	教師の手立て 見つけたらいつでも「材料発見カード」に材料とその使い方を記入して掲示用の模造紙に貼れるようにしておく。	検証の視点 ○イメージの意識化
	1 導入	自分の表現したい島を想像し、いくつかのアイデアを発想する力 行ってみたい島の物語を考えながら島のイメージをもち、アイデアスケッチをかく。	発想はよいので、自分なりの島のイメージをアイデアスケッチにかくことができる。 島を立体で表すこと、そのためどのような材料を組み合わせていくかなど、見通しをもって計画的に活動を進めていけるための指導が必要となる。	アイデアスケッチ アイデアスケッチの再現にならないように、小さな紙に次々にかいていけるようにする。どんな材料を使いたいかも考えられるようにする。 KJ法 小グループをつくり、「島」と聞いて思い浮かぶことをメモ用紙に書いて貼る。
2 3 制作	イメージに近づくように合う形や色、材料を工夫しながら立体に表す力 自分のアイデアを立体に表すために、材料を選ぶ力 島をつくる	イメージに合った材料選びや材料の組み合わせで悩むことが考えられる。「材料発見カード」から予想される用具やその使い方をすぐに提示できるように準備する。 どのような表現にしたいのか本児の思いを聞き取る。	ヒントコーナー 今までに経験した材料、用具を使って組み合わせ方、接着の方法などがわかるように、参考作品(教師・児童作成)を資料として展示する。 材料・用具コーナー 材料発見カードから用具を準備し、自由に試すことができるようにする。高学年で扱う材料として針金を準備しておく。	○表現の広がり ○表現の広がり
4 中間鑑賞	構想を練る 工夫したことや島への思いを話したり、友達の作品の表し方や感じの違いに関心をもってみたりする。 中間鑑賞会をしながら、イメージに近づくよう友達と意見交換をし、制作へのアドバイスをし合う。	「友達の工夫しているところやよいところをさがす」という肯定的な話し合い活動が進む中、前向きなアドバイスを友達から受けることで、最後まで投げ出さずに制作できる。友達の作品をみることで、発想や構想、創造的な技能について参考になるところを取り入れることができる。友達とのかかわり合いで認められることで自分の作品に自信をもつことができる。	グッドアドバイスカード 作品に生かせるようなアドバイスももらったら発表する。アドバイスできた児童にはグッドアドバイスカードを渡して意欲につなげる。 鑑賞のポイント伝える 学習のねらいを「鑑賞のポイント」として提示することで、的確な感想やアドバイスができるようにする。	○イメージの具現化 ○コミュニケーション活動 ○イメージの具現化 ○コミュニケーション活動 ○表現の広がり
5 6 仕上げ	新しい材料の使い道や材料の組み合わせ方など、試行錯誤しながらよりよいものになるように制作していく力。	中間鑑賞により発想が広がったり、アドバイスを生かしたりすることができる。表したいイメージが形や色として表現できるように試行錯誤しながら最後まで活動に取り組むことができる。	ヒントコーナー これまでに経験した材料や用具の使い方や工夫しているところを児童の作品から見つけ出し、写真で紹介する。	○イメージの具現化 ○コミュニケーション活動 ○表現の広がり
7 鑑賞	工夫したことや島への思いを話したり、友達の作品の表し方や感じの違いに関心をもってみたりする力 お互いの作品を鑑賞しあう。 作品に題名を付け、展示し、自分の作品についてカードに書いたり発表したりする。	自分の作品や活動に自信をもって工夫したことや島への思いを話すことができる。 友達の作品の工夫しているところを伝えることができる。	島の物語 島への思いを物語として表すことで、子どもの思いを見取る。 鑑賞カード 友達の作品のよさを記入し、相手に渡すことで、今後の活動への意欲につなげることができる。また、発想、構想の能力や創造的な技能について学びあうことができる。	○イメージの具現化 ○コミュニケーション活動 ○表現の広がり

④ 検証授業1の分析と考察

イメージの具現化

ア) 材料集め

材料集めカードを模造紙に貼って発想を共有できるようにするとともに、同じ材料でもちがう使用法を考えた場合は赤色で書き加えてもよいことにした。子どもたちは同じ材料でも何に使えるか発想することはそれぞれちがうことに気づくとともに、子どもたちが友達の見つけた材料を何に使おうとしているのか興味をもって試していることがわかった。

表3. 材料発見カード及び書き加えられた材料の使い道

見つけた材料	用途	別の用途
ブルトップ	葉	海にいる魚
チャック	ドア	ダム
緩衝材	海の波	何かの実
トイレットペーパーの芯	トンネル	船

抽出児童Aは見つけた材料は「発泡スチロール」、何に使えそうかについては「島」と材料集めカードに記入していた。このことから、立体作品として島を作るということを意識することができ、発泡スチロールを用いることで隆起した島のイメージが本児の中に生まれたことが考えられる。

イ) KJ法

小グループに分かれて話し合いをしながらKJ法を行った。抽出児童は「山、木、海、青、魚」と書いていた。「山」については材料集めカードに書いた「発泡スチロール」を使った高さのある造形のイメージが言葉として表出したと思われる。また、「山」から「木」を連想し、島の上には何があるか考え、さらに視点を移して「海」「青」「魚」といった島の周りについて具体的なイメージをもつことができた。



図9 KJ法を用いたイメージマップ

ウ) アイディアスケッチ

発想のよさを生かし、3枚の紙にアイディアをかいたが、材料集めの時の隆起した島のイメージからはちがいが細かく入り組んだ島の形をかいていた。ワークシートの「使えそうな材料」の項目に記入はなかった。

これらのことから、アイディアスケッチによる平面での線による表現にうつった際、材料集めの段階で発想した隆起した島のイメージから乖離してしまったことが考えられる。発想の方法として視覚的な経験から発想する傾向と、操作的な経験から発想が生まれる傾向がある児童がいる。本児は後者とみられ、実際に持ってきた材料を見て手を動かしながら発想を引き出す指導が効果的であった。

鑑賞の視点の提示

ここでの中間鑑賞は友達によさに気づき、発想を広げることのほかに、材料の使い方や技法の工夫について友達の作品を鑑賞することで学び合う、というねらいがあった。そこで、友達の作品をみるポイントとして「1、形や色 2、材料(くふうしているところ) 3、美しさ」と3点を板書き、確認しながら話し合いをすすめるように促した。参考になるアドバイスをもらった児童が内容を伝え合うことで新たな発想を共有できるようにした。この活動を行ったことで、友達と協同で作品を作り上げていくという意識が生まれたグループがあり、造形活動の中で悩んでいることを投げかけ、友達からのアドバイスを生かしていった児童もいた。

表現への広がり

中間鑑賞で友達によさを見つけるとともに、アドバイスできることがあれば伝える、という活動を行った。このことにより、次のように考えた。

- 自分の作品について説明することで自分が表したいことをより明確に確認することができる。
- 他者から作品について伝えられることで、自分の作品の新たな面を知ることができる。
- 作品のよさや工夫をみとめられることで、意欲をもって次の造形表現活動にのぞむことができる。

抽出児童Aは、発泡トレイを重ねる際に接着テープでつけていたので、教師が接着剤でつける方法を個別に指導した。しかし、うまくつけることができず振り返りカードにも「セロハンで台をかためているからきかない。」と悩んでいた。

中間鑑賞では友達から「ロボットがかわいいと思った。」「銅像をつくったところがいい。」と言われ、アドバイスとしては「接着テープは見えないほうがいい。」「もう少し色をきれいにして、もう少しきれいにつくるといいと思います。」と言われていた。

その後の制作活動では、接着テープをはがして接着剤を使ってもう一度挑戦する様子が見られた。

このことから、本児は自分の作品に対し接着がうまくできなかったことに悩んでいたが、友達から肯定的な感想を伝えられたことで、再び作品に前向きに取り組もうという姿勢が戻ってきたと考えた。

(2) 検証授業2：中学校1学年

① 題材名『イメージを深めよう』（1時間）（鑑賞：鑑賞活動から表現方法を広げる）

② 構想

子どもたちが自分の内側にある世界を想像し、架空の空間を描いている。各自が自分の想像の世界をもっているが、画面に構成する際に既成概念にとらわれた構図や色彩に傾きがちである。想像の世界ができるだけ空間として存在するように、遠近法や彩色によって表されるように工夫しているが、まだまだ平面的である。頭の中でイメージしたよいものを更に発想を膨らませ、表現を広げさせたい。そのため今回はシャガールの作品を鑑賞し、その作者の心情や心象風景などの表現に親しみ、作者の意図やねらいを想像しながら作品を味わうことで、作者の心情を感じ取らせ、構図や色彩などの工夫により、作品が深まることに気付かせたい。

制作中の作品「想像の世界へ」

学習目標

- ・自らの主題を設定し、創造的な構成を工夫して心豊かに表現する構想を練る。
- ・自分の表したい感じを大切にして、多様な表現方法を工夫することを通して、絵に表現する。

関心・意欲・態度

シャガールの作品についてふれることに楽しみ、意欲的にそのよさや美しさなどを味わい、作者の意図や心情に想像力を働かせる。作品の部分をとらえ、そこから全体像を発想し、友達の意見も参考にしながらイメージを膨らませるようにする。

鑑賞

感性や想像力を働かせて対象を豊かに感じ取り、多様な表現方法などについての理解を深め、自己の価値意識を大切にしながら、感じ取ったよさや美しさなどについて伝えることができる。

③ 本時の学習指導

ア) 目標と評価「本時の目標：鑑賞活動から表現方法を広げる」

項目	評価規準		Bを実現できない児童・生徒への手だて
	B「この題材で育てたい能力・態度」	A「十分満足できる状況」	
関心 意欲 態度	①鑑賞することを楽しんでいる。 ②美術作品の表現に親しみ、そのよさや美しさ、鑑賞の喜びなどを味わおうとする。	①美術作品に対する見方を広げ、作品などを意欲的に鑑賞し、美術を愛好しているようにする。	①楽しい雰囲気をつくり、鑑賞に親しみやすくする。
感受 鑑賞 審美	③感性や想像力を働かせ、自分の見方や感じ方で、作者の心情や意図と表現の工夫やよさや美しさなどを感じ取る。	②いろいろな見方や感じ方や発想の仕方、知識等を学び取り、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わおうとする。	②色や形から言葉を引き出し、見方を広げさせる。

イ) 準備

- ・生徒—教科書、資料集、筆記用具
- ・教師—図版、原寸大パネル（10分割）、資料、ワークシート、班発表用プリント
使用する図版—マルク＝シャガール「私の村」

ウ) 展開

過程	時間	学習内容	生徒の活動	教師の働きかけ	評価（方法）	備考 検証の視点
課題	5分	・学習の内容とねらいを把握する。 ・ワークシートを配布する。	・鑑賞の流れを理解する。	・本時のねらいと、どう いう視点で作品を鑑賞す るか伝える。		・色彩についてと、構 図について注目するこ とを伝える。
活動①	10分	・鑑賞作品のパート ツ（モノクロ）を各 班に配布する。 ・部分を観察して、 全体像をイメージ する。	・作品の部分 を鑑賞し、自分 がイメージした 意見を述べる。 ・友達の意見 を参考に、班 ごとに全体像 のイメージを まとめる。	・細部について の表現に気づ かせ、そこから 読みとれるも のを考えさせ る。 ・白黒で分か りにくい部分 もあるため、 途中でヒント になるキーワ ードを伝える。	・意欲的に鑑賞 に取り組んで いる。 (活動の様子)	・シャガールの「私 と村」を10の パーツに分けて、 各班に1枚ずつ 配布する。 イメージの具現化 コミュニケーション 活動

活動②	13分	<ul style="list-style-type: none"> 各班にイメージした全体像を発表させる。 全体のどこの部品か当て嵌めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の部分から膨らませたイメージを班ごとに発表し、違いなどを感じ取る。 全体のどの部分かパズルを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような世界観を抱いたか言葉で表現させる。 パネルに当て嵌め、作品を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言葉にできる。(ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> 発表した班から、部品を置いていき、パズルを完成させる。 イメージの具現化 コミュニケーション活動
活動③	12分	<ul style="list-style-type: none"> 作品(全貌)を鑑賞し、作者の意図や心情を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の全貌を改めて鑑賞し、作者の意図や心情に思いをめぐらせる。 全貌を鑑賞して、印象についてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者の表現の仕方から、意図や心情を補足説明する。 感じたことの違いなどについて考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作者の意図や心情について理解を深めている。(ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> 縮小版(10班分のカラー)を各班に配布し、班ごとに鑑賞を深める。 イメージの具現化
活動④	10分	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞会をふり返り、自己の作品の表現について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 見方や感じ方を広げ、自己の作品にも多様な表現を生かそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞会で得たことから、自己の作品をふり返り、表現の仕方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の制作中の「想像の世界へ」の作品をふり返り、表現について考えられている。(ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> 作品で変えようと思ったところに着目する。 イメージの具現化 表現の広がり

④ 検証授業2の考察

鑑賞の視点

「想像する世界へ」の授業の中で、資料集や絵本などを使用して、ダリやマグリット、ルソーなどの作品を紹介するとともに、構図の工夫や色彩表現についての多様性を考えさせた。ダリの時計に関する表現や、マグリットの空の使い方など、興味・関心を持ち自分の作品に取り入れる姿も見られた。ルソーの作品では絵に隠された表現について触れ、ただ何となく描くのではなく、自分の意図をもって描くことを伝えた。



図10 マルク・シャガール「私の村」

中学に入って初めての絵画作品ということもあり、単調な色彩表現や平面的な構図が見られた。著名な作家の作品を鑑賞することで、大胆な発想や豊かな色彩、緻密な計画による描写や表現方法の奥深さを知り、複雑な色の重なりや、既存の概念にとらわれない構図を見出してほしいと思った。

また、白黒の部分から鑑賞に入ることで、全貌が明らかになった時のシャガールの作品の色彩の豊かさに驚きを与え、大胆な構図の取り方に注目させ、作者が本当に伝えたい内容を考えることができるようにした。視覚から受けた印象を自分の作品と照らし合わせて、発想を豊かに伝えるために自分の作品にどのように手を加え、仕上げていくのか考えるきっかけになると思われる。

コミュニケーション活動

10分割したパーツを各班に配った。絵の一部分から周りを想像するため、より細部に目線がいき、自分がみつけたことを話し合い活動で積極的に伝える様子が見られた。新たな視点が得られたことで触発され、そこから想像の物語が発展していく班もあり、お互いのイメージを共有することで発想が広がっていったことがわかる。

個人の活動 部分から全体を想像する(ワークシート)	班での話し合い 全体像と絵のタイトルを想像する	班で決まったテーマ
S1: 一本の苗を男が握っている。 S2: 花の絵。葉のようなものがあるから。 S3: 花を持っている感じ。	S1: これ指輪じゃない? S2: 左手だと思う。 S3: 花を持っているよね。 S1: 指輪をつけている男の人が枯れた花を持って悲しんでいる。 S3: 何で男の人だと思ったの? S1: 指の太さ。 S2: 指輪をしてるから女の人かもよ。	絵のタイトル「花」 発表者 S1 この絵の特徴は指輪と手なんです。僕が思ったのは、これとあっちの班を組み合わせると花ができると思う。これは指輪なんです。だから、女の人が花を持っている。

班で想像したテーマ（生徒の発表）
 「男とネックレス」
 鼻と口とネックレス（キリスト？）がついているので、人間の口とかがあんまり笑っている感じではなかったの、全体的に暗い感じなんじゃないかと思いました。
 「自然・地球」
 7班の絵には弧の一部のようなあとがあったので、ここをあわせると地球になると思ったので地球だと思いました。

表現への広がり

パズルを完成させたあと、ほぼ原寸大のシャガールの作品を鑑賞した。

完成した絵を見た生徒の感想(ワークシートより)

「カラフル・謎の世界・人が緑」「人が緑色なのが気持ち悪い。人の目は白いのに、牛の目は黒いのか。」「牛と人の思い出?」「一つひとつのパーツがばらばらでよくわからない絵。一つひとつの絵が深い。」「世界の中に世界が入っているような不思議な絵」「おもしろくてちょっと怖い絵」「謎の空間」「牛の中に牛が入っていたり、人の顔の色が緑だったりして、ふしぎな絵だと思いました。人の目は白なのに、牛の方が黒で、そのほうが人間ぽいなあとと思いました。」「どこの何の絵なのか、全然わからない。でも、なんとなく不気味な感じがした。(色などが)」「ごちゃごちゃしているけど⇒近くからみると工夫が見えた。顔などで明るい不思議な印象をもった。」「色がとてもカラフルで人や家などが逆さになっているのはなんだろうと思います。」

シャガールが幸福の象徴として描いたヴィデブスクの木や、形の表す心象表現の説明を聞いた後、再び一つ一つの部分の色や形に目を向けて鑑賞する様子が見られた。配色や色の重なりなど生徒が制作中のモダンテクニックを使った想像画の参考となりそうな部分を示し、自分の作品について振り返るように促した。

	自分の作品ふりかえり	教師の指導	色や形で生かそうと思ったところ(次時)	イメージで生かそうと思ったところ(次時)
生徒A	もっと色を混ぜた方がいい。	どんな風に色を混ぜていきましょうか。	混色をもっと使う。	明るい色を混ぜる
生徒B	色合いがよく、いろいろな色を使って色を塗る。	重色、混色をしていこう。	色は、種類を増やす。	
生徒C	おもしろい色をワンポイントで入れてみるのもいいかなと思いました。でもパステル調の雰囲気は残しておきたい。背景に城をかいてみたくなった。	おもしろいですね。お城がぼんやりあるのかな？	薄いところや濃いところをつくりたい。	背景に建物を加えたい。
生徒D	背景の色など少しずつ違う色を塗っていいと思います。自分だけの独特な色使いをしていいと思います。	楽しみになってきました。どんな色あいになるんだろう。	独特な色使い(自分らしさをアピール!?)	
生徒E	自分の絵は色が単純すぎたから、もっといろいろな色を使う。	どんな風に使っていくと良いでしょうね。	人の顔の色が肌色ではなく緑色だった。家がさかさまだった⇒ユニーク	全体的な色を変える⇒重色

シャガールの絵から感じたことを言葉や絵で表現する活動を行い、最後に自分の作品について振り返りを行った。生徒がどのようにしていきたいかを具体的に言葉に表し、学習カードに記入していたので教師はそれを読み、個に応じた指導を行うことができた。鑑賞後、生徒の活動に下絵には無かったものを付け加えたり、重色や混色を積極的に取り入れたりする様子が見られた。構図から新たなイメージをもった生徒は、シャガールの絵の背景に描かれていた町並みから背景に城をかきたくなった、とワークシートに記入していたことから、遠近法を用いた表現の方法について指導を行うことができた。

山を描いていた生徒（男子2名）は、平面的な塗り方では木々の様子を表現できず、活動が行き詰る様子が見られたが、一人は違う色を点描で重ねていくことを思いつき、もう一人の生徒は筆遣いと混色を行って自分の思い描くイメージに近づけることができたようだ。既成概念にとらわれない色彩や構図のシャガールの作品を鑑賞したことで前期に学習した色相環のことを思い出し、反対色をスパッタリングや点描で重ねる生徒もいて、表現の幅に大きな広がりが見られた。

(3) 検証授業3：中学校2年生

① 題材名「現代作家の作品を自分の目でみて選ぼう」(鑑賞：見方を広げる)

② 構想

今回は、マーケット形式で自分の個人的な視点から好きな絵を選ぶ(買う)。このときには予備知識など何も与えない。生徒は好きな絵を選ぶ代わりに、自分が選んだ理由(よいと思ったところ)を考える。その後、それらの絵についてのキーワードを与え、さらにキーワードをヒントにその絵について考えさせる。最後に、その中の村上隆の作品にスポットを当て、作品づくりに対する作家の考えなどを知る。村上隆の理解にはテレビ番組の録画を10分程度に編集したものを使用する。途中でタイトルなどを入れ編集し、映像の中から学んで欲しいことをわかりやすく伝える工夫をしてみた。

関心・意欲・態度

身近な芸術である現代美術について自分の感覚を働かせて、主体的に活動に参加できるようにする。新しい取り組みに対して楽しみ、意欲的に取り組ませる。

鑑賞

自分の「好き」と思った作品のどこに惹かれたのかを、相手に伝わる文章で書く。「また、友人の作品に対するコメントを聞き、自分の考えと比較する。後半は、作家の考えについて知ること、作品について新たな方向から見つめられるようにする。

③ 本時の学習指導

ア) 目標と評価「本時の目標：鑑賞活動から表現方法を広げる」

項目	評価規準		Bを実現できない児童・生徒への手立て
	B「この題材で育てたい能力・態度」	A「十分満足できる状況」	
関心 意欲 態度	作業に自ら参加し、活動を楽しむ姿勢をもつ。	活動を楽しむと同時に、深く作品を鑑賞しようと、自分なりの視点で作品を鑑賞することができる。	自分が感じたことを大切にしよう意見などを肯定的に扱いたい。
感受 鑑賞 審美	授業の流れにそって鑑賞を深めることができる。キーワードの意味を理解し鑑賞することができる。	作品について深く鑑賞し、鑑賞したことを自分の言葉で表現することができる。	「よかった」「いいと思う」などという言葉から、どこがいいのかなどを引き出させたい。

イ) 準備

<ul style="list-style-type: none"> 生徒—筆記用具 発表生徒—セールス原稿 教師—3枚の絵の印刷物、セールスプリント、1ART札40枚、鑑賞プリント1、鑑賞プリント2 大型テレビ、ビデオデッキ、村上隆編集DVD 	使用する図版など 村上隆 Tan Tan Bo 奈良美智 Sleepless Night—Sitting 山口晃 東京圖 六本木昼圖 源氏物語絵巻 朝顔 TV カンプリア宮殿「芸術はビジネスだ！」
--	---

ウ) 展開

過程	時間	学習内容	生徒の活動	教師の働きかけ	評価(方法)	備考 検証の視点
課題把握	5分	美術マーケットの開催について活動内容を把握する。	本日の「美術マーケット」の方法について聞き理解する。	ゲーム感覚で参加できるよう、活動の方法などの説明では工夫する。		
活動①	5分	セラーのセールストーク	事前に選ばれていたセラーがそれぞれの作品についてセールストーク(作品のよい点などの説明)を行う。	授業事前にセールストークについてのアドバイス、指導を行っておく。	活動の様子	イメージの意識化 コミュニケーション活動
活動②	15分	作品購入(交換)作品について考える①	各自の気に入った作品について、よいと思った理由をプリントに記入し、絵と交換しに行く。	よいと思った理由を書くときのポイントなどのアドバイスをする。	活動の様子 鑑賞プリント1	イメージの意識化 コミュニケーション活動

活動③	12分	作品について考える②	絵の交換が終わったら、鑑賞のプリントをもらい、それぞれの作品についてより深く考える。	キーワードを提示し、作品の見方を深めたり、気づかせたりする。	活動の様子	イメージの意識化
活動④	10分	セラーセールス結果発表	セラー役の生徒が売り上げ結果と購入理由（作品のよいと思った理由）を発表する。		活動の様子	コミュニケーション活動
鑑賞	20分映像10分	村上隆について知る	プリントを見ながらDVDを鑑賞する。	DVDをはじめても内容がわかりやすいように項目ごとに簡単な解説を加える。	活動の様子 鑑賞プリント2	
まとめ		プリントに本日がかったことなどを記入する。	プリントに村上隆について考えたことなどをまとめる。	作品について説明するという村上隆の作品づくりと自分たちの作品づくりについて考えさせる。		イメージの意識化 表現の広がり

④ 検証授業3の考察

コミュニケーション活動

オークションの売り手役の生徒は自分たちで作品の説明を考えて発表した。

山口晃「六本木昼圖」セールストーク
 この絵は、日本版ウォーリーを探せという感じです。
 絵のセンターとなるこの橋をよくみてください。
 着物を着ている人、今現在の日本の服を着た人が行き来しているのがわかりますか。
 これは何の意味を示しているのでしょうか。
 そして、おもしろいことはこんなビルが建っているのに豆腐屋のおじさんがいることや、ここに変な物騒なかつこうしているおじさんや、ここに変な乗り物に乗っているおじさん。そして、平安京みたいな着物を着ているおじさんがいます。ぜひおもしろいので買ってください。

セールストークを聞いた後（紙幣型ワークシート記入内容）
 「細かいところまですごかいてあってすごいし、しかも面白いからいいと思いました。」「遊び心にあふれていてふしぎな人たちを探すところが楽しい。」「外国じゃなく、日本なのが日本人として面白い。」「今と昔がいろいろ混じっていていいと思います。」「とてもインパクトがあり、いろいろな絵が混ざっていておもしろいと思った。」「和と洋がまざっていておもしろい。」「文明開化六本木 見てて、面白いしあきないから。」「和+洋でおもしろい」「色々な時代のもの、風景画が組み合わせあって面白いから、奥が深いと思いました。」「とても印象深い絵。いろいろな人柄があっていいと思った。」「今と昔がかさなりあっていて面白そうだから。東京だから。」

セールストークを基に紙幣型のワークシートに記入し、絵を購入した。セラーになった生徒の中には、自分たちの絵を売るために、絵の説明を新聞形式にまとめて掲示したグループもあった。セールストークを聞いてそれを基に購入したことがワークシートからもわかる。今回は初めての取り組みだったため立候補した6人がセラーとなったが、各班で1枚の絵の説明を考えて全員がセラーになる活動を行うと、「話す」「聞く」の両面から学習を深めることができる。

鑑賞の視点の提示

それぞれの絵についてキーワードを加えたワークシートに購入した作品（A4版）をみながら鑑賞した。鑑賞の視点から作品についての知識を得たことで、社会科の歴史での学習を思い出しながら作品からさらに多くのことを読み取り、理解を深めていったことがわかった。

キーワード「大和絵」「源氏物語絵巻」と購入した作品を基に鑑賞した後のワークシート
 「近代的な六本木を大和絵にすると、なんか古い感じに思った。源氏物語絵巻も近代的にできると思う。大和絵は時代を変えられることだと思います。」「この作品は昔にかかれたものではないのに、着物を着た人がいたり、豆腐屋さんがいたりして、色使いも昔のような感じだなと思いました。まるで、昔の大和絵や源氏物語絵巻にかかれていそうな、色使いだなと思います。雲の色も白ではなくて、黄色にされていて、何か理由があるのかなと思いました。」「現代の景色、建物なども大和絵風にかかれていますので、一見すべて昔のように思えるが、よく見てみると現代と過去がまざっている。」「源氏物語絵巻にこのような絵があるのを知って、こんな本を読みたくなった。大和絵は国風文化の時なので独特な雰囲気があっておもしろかった。」

表現への広がり

村上隆の作品制作に関する DVD を、その内容を簡潔にまとめた資料 1 を参考にしながらみた。村上隆については半数の生徒がテレビ等で作品を見たことがあり、身近な存在であった。最後に VTR の中で紹介された作品について主観に基づく点と作品のストーリーを踏まえて考えたことの 2 点について感想を書かせた。最初から村上隆の作品を選んだ生徒の作品、および作家への思いの流れである。生徒の感想は単なる好き、嫌いにとどまらず、キーワードと VTR による情報を与えたことで自分の制作への想い、美術に対する考えへと深まり、それをもとに書かれたと思われる。

資料 1 村上隆「芸術はビジネスだ！」

1. 村上隆の作品とは

オークションで美少女フィギュア 4860 万円等

2. パリの個展にて

3. ストーリーをいかに伝えるか

作品の製作過程を VTR で伝える試み 塗り固められた白いキャンパス 作品の価値を高めるのはその価値をいかに伝えるか
自分の作品を説明していく大切さ 日本古来の絵巻物 信貴山縁起絵巻 おたくアート 日本の伝統絵画の後継者 絵巻物
浮世絵 漫画 アニメ ポップアートと日本絵画の融合

4. 河童の仏像

5 年越しで取り組む作品 7m の作品 ストーリー 仏教美術との関係 自分が影響を受けたもの

	セールストークを聞いた後	キーワード(「漫画・アニメ」「平面的」を基に)	ストーリーを伝えられて作品をみると、伝えられないでみるのはどちらがうか	主観に基づく点と VTR で紹介された内容を踏まえて考えた感想
生徒 F	色使いがよいから。	アニメのような色づかい、漫画のような作画。しかし平面的な臭いを感じさせるこの絵は、私的に気に入りました。	ストーリーを知った方が高い評価が得られる	好き 日本のアニメと漫画は芸術だ。
生徒 G	カラフルで華やか。細かく描いてあってすごくきれいだった。	華やかな色づかいで、まるでアニメや漫画の世界に自分が入り込んでしまうような感じ。平面的に描かれているのに立体的に見えたり、ふしぎな感覚にさせられる。作者がもっている独特の世界観が感じられる。	その作者が作品に込めた思いを自分も感じられる 作品のすべてを知り、良さを考えられる	好き 作者自身の深い思いがその作品自体に表れている。
生徒 H	その絵は、すごく独創的で、すごく買いたいという気持ちが出るようなとてもいい作品だと思えたのでその絵を選びました。	この絵は、小さな子どもがみるアニメに出てきてみんな(小さな子どもたち)にえがおをあげられると思えるほどの絵だから買う気になった。	伝えられると自分で考えなくても作者の言いたいことが絶対になり、それ以外は何もない。 伝えられないと自分で理解、この絵はこんなことが言いたいのだろうと想像するのがいいと思う。	あんまり昔からの流れを壊すようで、自分的には考え方が違うなと思った。

今回の学習が今後のどのような活動で生かすことができそうかアンケート調査を行った。複数回答可で一番多かったのが「デザインするとき」24 名、続いて「作品を鑑賞する楽しさを味わうとき」20 名、「作者の思いを知るとき」17 名、「絵をかくとき」16 名と続いている。

この授業はこれからの制作活動のときに自分の作品に主題性やストーリー性を持たせるきっかけとなるように計画をしたが、カリキュラムの都合上単独型の鑑賞になってしまい、村上隆と自分を重ねてつくる側に立った場合の考えにまで発展させることができなかつた。

例えば、デザイン・工芸で題材として篆刻を取り上げ、作品

を見ただけでは伝わらない作者の思いを見た人に分かってもらうために、授業の導入時鑑賞としてこの活動を行うことが考えられる。生徒が作品への思いをもつことを別の視点からとらえさせ、表現活動に生かしていくことができる。

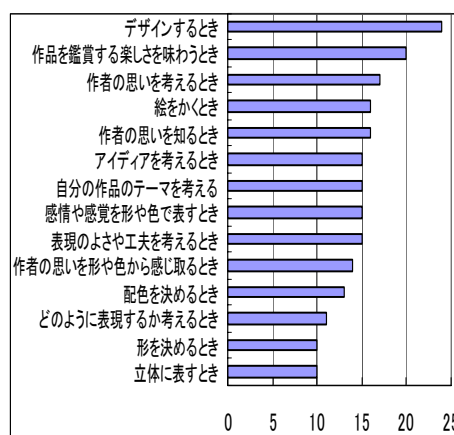


図 1-1 今後どのような活動で生かせるか

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、主題にある「表現と鑑賞の一体的な指導を通じた授業の在り方」について「イメージの具現化につながる活動」「図画工作・美術科の中での言語活動の充実」「表現の広がりにつなげるための鑑賞方法」に着目し、授業実践を通して研究を行った。その中で明らかになった点は次のことである。

検証授業を行った小学校高学年から中学校にかけての思春期の子どもたちは自分の作品や活動を客観的に見る力や、論理的思考能力が高まるため、鑑賞の視点を提示することで自分なりの考えをもとに鑑賞することができた。また、鑑賞で感じ取ったことや作品から読み取ったイメージを言葉で表し、友達や教師に伝えることでより明確になり、制作への助言や指導の形で造形表現活動に生かすことができた。

鑑賞の時期については、活動の途中で相互鑑賞や作品を鑑賞したことが、自分たちの作品を振り返るきっかけとなり、表現に新たな発想をもたらしたことが発表やワークシート、作品から読み取ることができた。以下に具体的な研究の成果と課題についてまとめる。

(1) イメージの具現化につながる活動

検証授業1では、材料集めの段階からイメージを言葉として表し、子どもたちの発想を広げるために視覚だけではなく材料に触ったときの感触など他の感覚を生かしてイメージを具現化する活動を行った。

検証授業2は、10分割した作品を鑑賞したことで、作品の全体像をイメージし、その後実際の色調で作品を鑑賞したことで、既成概念にとらわれない構図や色彩の豊かさに驚き、そのイメージを活動に生かせるように促した。作品への振り返りでは自分の絵をこれからどうしたいのか具体的に明らかにすることができた。

検証1、2ともに自分の発想や思いをどのように形や色として表したいのかが明らかになり、それをもとに児童生徒が活動を行っていくことができた。また、どのように表現したいかを言葉として表すことができたため、教師がそれを読み取り、一人一人に応じた指導を準備することができた。

検証授業3では、まず作品を鑑賞する、キーワードを与えられて鑑賞する、資料をもとに鑑賞する過程を通し、その度にイメージを意識化することで、自分の考えをもって作品を批評できるまでに鑑賞が深まることがわかった。

(2) 言語活動の充実

3つの検証授業で、言語活動に対して子どもたちは積極的に取り組み、思いを言葉として伝えたが、「話し合う」という段階まで到達したとはいえない。図画工作・美術科で思ったことや感じたことを話し合うことでさらなるイメージの広がりにつながるように言語活動に関する取組を継続して行いたい。

鑑賞についてのアンケートの結果から「感じるが表現が難しい」とあったが、造形言語を多くもたないため、言葉による表現の方法がわからなかったのではないだろうか。鑑賞の視点を提示したことで、その内容をもとに話をしたり、書いたりすることができたので、一人一人が感じとったことを自分の言葉で表すことができるような指導を行っていく必要があることがわかった。

(3) 表現へのつながり

造形表現活動のねらいにそった鑑賞題材及び鑑賞の視点を検討して提示し、活動の振り返りの機会

を設けたことで、自分自身の作品に対してどのようにしたいのか、ということを確認にとらえられたことが学習の振り返りカードやワークシート、作品からもわかる。自分なりのよさや美しさを感じとる価値意識をはぐくむために、またより多くの表現様式を知り、そこから得たイメージを表現に生かしていくためにも、授業の中で様々な作品をみる鑑賞を積極的に取り入れていく価値があることが明らかになった。

2 今後の課題

本研究では検証のために3つの授業を計画、実施したが、今後、より広い範囲で「表現と鑑賞の一体的な指導を通じた授業」が実現するためには、次の課題が残っている。

- ①年間を通して、さらに6年間、3年間の図画工作科・美術科を通して鑑賞を十分に表現に生かすことができる鑑賞題材の設定やカリキュラムの在り方を検討すること。
- ②自分の考えをもって作品を鑑賞し、お互いに交流することができるようになるための図画工作・美術科における言語活動のさらなる充実を図る。
- ③鑑賞で感じ取ったイメージを色や形として表すための創造活動の基礎的な技能を身につけさせる。

以上のような課題の追究を通して子どもが自分の表現したいもののイメージを具現化して発想、構想につなげ、技能に支えられて自分の思いが色や形となって表れる「つくる喜び」を実感し、制作に自信と満足感が得られるようにしたい。また、鑑賞を通してそれぞれの感じ方や考え方がちがうことがわかり、自分の価値意識をはぐくむとともに、友達の価値意識も認めることで、互いの存在を確認しあい、造形・美術に親しみながら心豊かに生活する力を身につけさせることができるように、一層の研鑽に努めたい。

最後に研究をすすめるに当たりご多忙中にもかかわらず、適切な指導・ご助言をいただきました先生方、そして、この研究を支援してくださいました研究員所属の学校の校長先生はじめ、教職員の皆様に心より感謝し厚く御礼申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|--|-------|
| ローウェン・フェルド『美術による人間形成』黎明書房 | 1963年 |
| M. リチャードソン〔北条聰、淳子訳〕『イギリスの子どもの絵』 | 1980年 |
| ヘルガ・エング『児童の描画心理学』 | 1983年 |
| 新井哲夫『様式の不在としての描画の危機—思春期における描画の危機をめぐって』
美術教育学第11号、 | 1990年 |
| 山木朝彦 仲野泰生 菅章編著『美術鑑賞宣言』 学校+美術館 日本文教出版 | 2001年 |
| 品川区教育委員会 『品川区小中一貫教育要領』講談社 | 2005年 |
| 新井哲夫『我が国における児童中心主義（創造主義）の美術教育に関する研究』 | 2008年 |

【指導助言者】

- | | |
|--------------------|-------|
| 群馬大学教育学部教授 | 新井 哲夫 |
| 川崎市立小学校図画工作科教育研究会長 | 山村 直敬 |
| 川崎市立中学校教育研究会美術科部会長 | 成生 義幸 |
| 川崎市総合教育センター指導主事 | 佐藤 利行 |